

校長だより

令和四年九月十五日

岸和田市立北中学校 松下 孝徳

とうとう二学期が始まりました。一学期後半、新型コロナウイルスの第七波が再来し、私自身も様々な夏休みの行事のタクバ変更により、中止になりました。しかし世の中はウズコロナで大いに規制はなく、緩和の中で進んでいます。このように学校現場の実態と世の中の流れの矛盾を感じながら、過ごした夏休みでした。そして八月二十五日(木)、リモートという形で始業式を行いました。体育館で直接生徒の皆さんのが見ることができませんでした。夏休みの報告、挑戦したこと、二学期の各学年にとって非常に重要な学期であることを伝えました。一年生はたくさんの行事の初挑戦、二年は中1学年として上昇する、停滞する、の合坂点、三年生は道路を決める大一番であると思います。それを胸において、数々の学校行事、地域行事を経験してほしいと伝えました。そして今学期の学校目標は「絆と挑戦」です。多くの行事に挑戦し、仲間や先生との絆を深めてほしいと思います。先日、私は二年生の数学の講話を行いました。校長は授業という形ができませんので、講話をどう形で行いました。その中で生徒に話した内容を紹介します。ひととある大学の教授が学生

にある質問を行いました。それは、……に大きな容器があります、この
に大きな石を一つ入れます。さうして、この容器にいよいよ入るには
どうすればいいですか?すると学生は小石をいよいよ入れればいい
では、と小石を容器にいよいよ入れました。すると教授はさらに
いよいよするにはどうすればいいか尋ねました。学生は砂を隙
間に入れればいいになると答え、隙間にいよいよ砂を入れまし
て、見に目には大きな石、小石、砂で埋め尽くされました。
この一回の教授は、この容器をいよいよ満たすにはどうすればいい
か尋ねました。それは学生も困って開口してしまいました。
そこで教授はやせんに水をいよいよためて、その容器に水を注
げてきました。これが、この容器はいよいよなりました。と教授
が学生に伝えると、学生も感じていました。……と質問です。
この教授は、この実験を通じて学生に何を教えたのかのことでし
ょうがつ、といつ質問です。皆さん、お分かりになりましたか?
容器を満たす様々な方法がある事と考えました。が、この教授は違
つようです。この容器は学生の中、一番大きな石は学生の一番
大きいと(夢・目標)それは一番最初に入れなければ、後から入れよ
うとしても、もう入らなくなつ。日々暮らしていれば、じの中は小石や
砂、水など埋まつてしまつ。だから学生である君たちは
必ず一番したりと、大きな光る石を見つけてほしい。後で

後悔しないためにも…。と、一つ、と決めたのです。中学生は今
しかるべきからこそ、大きさが大きい大きな岩を最初に
見つけてはいると思います。

新学期に入れて北中の生徒は元気いっぱいに日々生活して
います。これは保護者の皆様の温かい支援、ご協力の賜物だと
実感しております。我々教職員一同は、今学期も感染防
止を徹底し、生徒との「絆と挑戦」そして尊さをもって全力で
取り組んでいく所存です。今後とも、よろしくお願ひいたします。